令和7年度　学校評価　【遵摩高等学校】

生徒育成方針 （グラデュエーションポリシー）	①地域に愛着と誇りを持ち、地域の発展に貢献できる生徒の育成を育成する。 ②自らの課題や目標を設定し、自己実現に向けて主体的に取り組む生徒を育成する。 ③多様性を認め、協働しながら、課題を解決できる生徒を育成する。 ④自己肯定感・自己有用感が抱ける生徒を育成する。

【評価】　A：達成　　B：概ね達成（目標値80%以上）　C：改善努力必要

評価計画											学校評価の結果・評価・課題・改善案					
重点目標	生徒育成方針	運営方針	担当	具体的施策	評価指標 （到達したい状況・状態）	アンケート 生徒	アンケート 保護者	アンケート 教職員	目標値	アンケート内容	R6結果 *質問の一部に変更有	R7結果	校内評価	反省及び次年度への課題等	学校関係者評価	改　善　案
学校や生徒の魅力化	①	総合学科高校としての魅力化支援	総務	・オープンスクールの充実を図る	生徒・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	○			80%	生徒が中学生に総合学科の系列の魅力を伝えられたか【２年生のみ】	94.8%	93.9%	A	2年生は準備から当日まで、系列の魅力を伝えるために、先生方と相談したり、みんなで協議したりして、準備をした。 当日は皆で協働して中学生に親切丁寧な対応をした。中学生からも生徒の対応がよかったと評価をいただいた。 日程について課題があるが検討していきたい。	A	来年度も中学生に向けなによる案内、ネットによる申し込みなど、生徒自身で申し込めるようにする。受講講座の連絡など不安や心配を与えないように配慮する。日程も検討して、調整する。 中学生に総合学科の内容を伝えるためにオープンスクールは必要であり、各系列の先生と生徒が日頃の学習内容や遵摩高校の良さを伝えられるように工夫す
								○	80%	生徒が中学生に総合学科の系列の魅力を伝えていたか	100.0%	100.0%	A			
	②	生徒の将来を見通したキャリア教育の充実	総合学科研究	（１・２年生） ・選択ガイダンスや見学・体験を通じ、生徒が自らの課題や目標を設定し、自己実現に向けて主体的に取り組むよう、体制を強化する。	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	○			80%	あなたは系列選択・科目選択を、自分の目標や興味・関心に合わせて、自分の意思で主体的に選択することができたと思いますか。	97.3%	95.7%	A	１年生は２年次からの系列（モデル）選択に向けて、総探ＩＡを軸として、各系列担当の先生方の協力を得ながら、計画的に系列体験等を実施することができ、生徒の主体的な選択・決定に資することができた。また、教務部、学年部と連携し、１・２年生の保護者への情報提供について、適切な時期に行うことができた。 今年度は系列選択・科目選択ともに、定員を超える希望者があり、他への変更が多く生じたことが課題である。	A	２年次からの系列（モデル）選択では、定員制限があることや調整の時期についての事前周知を行う。総探ＩＡを軸に引き続き、各系列の先生方の協力を得ながら、計画的に系列体験等を実施し、生徒の主体的な自己選択・自己決定を促していく。また、保護者への情報提供についても適切な時期に実施する。
							○		80%	お子様は系列選択・科目選択を、自分の目標や興味・関心に応じて、主体的に選択することができたと思いますか。	95.1%	89.1%	A			
								○	80%	系列選択・科目選択のためのガイダンスや系列別授業体験、系列別授業見学、履修相談会等は、生徒が目標や興味・関心に応じた主体的な選択をするための指導体制として効果的に機能していましたか。	90.6%	87.9%	A			
	①	地域と連携した総合学科教育の魅力化推進		・学校行事「遵摩高フェア」を全学年・全教職員体制で実施し、総合学科高校における地域課題解決型学習の成果を包括的に具現化させる。	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	○			80%	模擬会社「ラッキークローバーカンパニー」が生徒主体で運営され、「遵摩高フェア」が学校と地域を繋げる取組になっていたと思いますか。	95.9%	97.1%	A	模擬会社「ラッキークローバーカンパニー」のもと、全学年・全教職員体制で遵摩高フェア2025を実施でき、本校における学習成果を包括的に具現化することができた。	A	Ｒ８年度も引き続き、全学年・全教職員体制で遵摩高フェア2026に向けて準備を進め、本校における学習成果の包括的な具現化を目指して取組を進める。
							○		80%	お子様が「遵摩高フェア」に主体的に関わり、学校と地域を繋ぐ取組に貢献できていたと思いますか。	88.9%	91.2%	A			
								○	80%	模擬会社「ラッキークローバーカンパニー」が生徒主体で運営され、「遵摩高フェア」が学校と地域を繋げる取組になっていたと思いますか。	96.9%	100.0%	A			
	②	キャリア教育の充実と推進	進路指導	・進路行事や進路学習の時間を計画的に活用する。	生徒・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	○			80%	進路weekやガイダンスなどの進路行事や、進路に関わる学びを通して、社会と自分の関わりや将来の自分の生き方、そして進路実現のために今しなければならないことなどについて、考えることができましたか。	98.2%	96.2%	A	全学年対象の進路行事や総探等は、計画通り行うことができ、各学年毎に進路実現に向けてすべきことを周知し、課題克服に向けての支援を行うことができた。またインターンシップに代わるオープンカンパニー事業（市役所主催）と連携しキャリア教育活動を行うことができた。 来年度も外部と協力しながら、キャリア教育の充実を図っていく。	A	生徒の実態に合わせ、各進路行事の見直しや、補習、面接・小論文指導などの計画の改変を行って行く。
								○	80%	進路行事（進路weekやガイダンス）や補習、面接・小論文指導などを通し、進路選択に必要な知識や態度を育成するための指導支援ができていると思いますか。	100.0%	97.0%	A			
	②	保健委員会活動の充実	保健	・保健委員会の活動を通して校内美化への意識を高めたり、心身の健康について学ぶ機会を設定したりする。	生徒・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	○			90%	保健委員会の活動は、あなたの美化の意識につながっていると思いますか。	* 91.8%	92.9%	A	保健委員会の活動を通して校内美化への意識を高めることができた。また、文化祭や「ここからカフェ」等の企画を通して心身の健康について学び機会を設定することができた。引き続き市役所との交流等を続けていき、広報活動に務め生徒の参加を促したい。	B	市役所等の交流を引き続き続けていく。 広報活動に務め生徒の参加を促す。
						○			70%	保健委員会が企画した交流会に参加したことがありますか	-	42.4%	C			
								○	80%	保健委員会の活動は、生徒の健康増進や美化に対する意識につながっていると思いますか。	81.3%	97.0%	A			
	④	図書館活用の充実と読書活動の推進	図書情報研修	・図書資料の活用の充実を図り、図書委員会の活動等を利用して活字に親しむ生徒を育成し、図書館利用を促す。 ・教科指導や総合的な探究の時間などにも活用できる図書や環境整備に努める。	生徒・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	○			80%	本や雑誌・新聞を目にしたり、授業や調べ学習や試験勉強をしたり、放課後などの休み時間に図書館を利用したり、図書館を利用した活動や行事に参加したりしましたか。	78.5%	62.4%	C	生徒の肯定的な意見（AとB）が62%と６割弱にとどまった。授業での図書館の利用率を上げ、図書館に来たい、という意識を高めさせたい。蔵書の配置の工夫や魅力的な本の購入に努め、図書館の魅力を高めたい。	B	授業での図書館の利用率を上げ、図書館に来たい、という意識を高めさせたい。蔵書の配置の工夫や魅力的な本の購入に努め、図書館の魅力を高めたい。
								○	80%	授業やその他の活動、または図書・資料の検索、貸出等で、図書館を利用できましたか。	68.8%	81.8%	A			
	③	自他の人権を尊重し多様性を認め合う教育の実践	人権教育	・人権に関するホームルーム活動の充実 ・全校講演会の企画および全校集会、便りの内容の充実 ・生徒理解を深めるための教職員研修の実施	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	○			85%	あなたは、学校生活の全体を通して、人権感覚をみがくことの大切さを理解し、自他の人権や多様なあり方・生き方を尊重することができましたか。	98.2%	95.2%	A	学期に１度の人権学習LHRでは、各学年の実態に沿った学習内容で実施したことで効果が高かった。その中で、集団生活における自分のあり方や他者とのかかわり方を見つめ直す機会となった。 また、全校一斉講演会（２・３年生/１年生）では、外部講師を招き「いじめ・差別」を無くし楽しい学校生活を送るためには何が必要かを考える一助となった。 課題としては、SNS利用時も含めて「相手の気持ちを考え言動する」技術を高めることが必要である。（公共機関のマナーも含む）	A	SNSの適切な利用やトラブルの対応・公共機関のマナー向上に関して、定期的に生徒指導部と共同で指導する機会を設ける。
							○		85%	学校は、人権に関するホームルーム活動を中心に、教育活動の全体を通して、生徒が自他の人権を尊重し、多様性を認め合うことができるよう働きかけていますか。	87.7%	87.8%	A			
								○	85%	人権に関するホームルーム活動や、講演会、全校集会、便り等の取り組みは、生徒の人権感覚を磨き、人権意識を高めるうえで効果的でしたか。	93.8%	87.9%	A			
	②	将来の進路実現に向けての目標設定の確立	２年学年会	・総合的な探究の時間の授業やｏオープンカンパニー等でねらいを確認させつつ、中長期的目標につながるよう進路意識を深めさせる。	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	○			80%	あなたは将来の進路実現に向けて自分の目標や興味・関心に合わせて主体的に考えることができたと思いますか。	96.1%	97.1%	A	生徒からの肯定的な回答が得られたことから、活動内容に関しては効果があり、一定の目標は達成できたと考えられる。しかし、保護者からの反応は目標値を大きく下回る結果となったのが反省点である。保護者と生徒が進路について一緒に考える機会に繋がるような取り組みを企画することが必要かと考える。	A	課題は『保護者と学校』の関係性を強化することであると思われる。これまでは生徒を介してのみで、各家庭に進路実現のための情報・活動の様子が伝わることを期待していたが、さらに他の手段も利用することが必要であると考える。具体的には、進路指導部と2年学年会が連携して定期的な通信を発行する、公式instagramに取り組みの様子を記載する等を検討したい。
							○		80%	お子様は将来の進路実現に向けて自分の目標や興味・関心に合わせて主体的に考えることができたと思いますか。	84.0%	69.8%	B			
								○	80%	生徒の進路実現に向けてそれぞれの目標や興味・関心に合わせて主体的に考えさせるための指導体制として効果的に機能していましたか。	78.1%	93.9%	A			
	－	教育施設・設備の充実と円滑な学校運営	事務	・効果的な予算執行による施設・設備の充実 ・支援金等制度の周知徹底と申請手続きの支援	保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合		○		95%	電話や来校時など、事務室の対応は丁寧だと思いますか。	92.6%	93.9%	B	・効果的な予算執行については、体育館の暗幕の更新等実施できた。 ・支援金等制度についても、年収９１０万円以上の世帯にも高校生等臨時支援による授業料無償化の周知及び申請手続きの支援ができた。	A	・学校の窓口として、電話や来校者への対応を丁寧に行う。 ・教職員と連携情報共有し、効果的かつ適正な予算執行に努める。
								○	95%	教職員と連携した効果的な予算執行だと感じていますか。	93.8%	97.0%	A			
学習指導の充実	②	生徒の成長を促す授業実践の環境整備	教務	・ユニバーサルデザイン環境の定着を推進し，落ち着いた授業環境を構築する	生徒アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	○			80%	あなたは授業を受けるに際して、先生方から明確な目標が示され、その目標に到達するために授業の工夫がされていると感じましたか。また、あなた自身はその目標に向けて努力することができましたか。	96.8%	94.3%	A	黒板に「本字の目標」及び「授業の流れ」を記載することにより、生徒が学習に対する目標を持ちやすく感じていると思われる。今後も続けていきたい	A	今後も生徒が学びやすい環境作りに努めるよう働きかけていきたい。また、生徒用端末も含め、効果的なICT機器の活用方法について学習の機会を設けたい。
				・授業実践力の向上	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合			○	80%	あなたはICT機器の活用や教材の工夫をすることで，生徒が主体的で対話的な学習活動を行うための授業づくりができましたか。	68.8%	84.8%	A	教科の特性もあるが先生方が何らかの形でICT機器を活用しながら授業を展開している様子がうかがえる。次年度は、授業互見にICT活用を取り組むことで活用事例の学習の機会にしていきたい。	A	
生徒指導の充実	②	自己実現に向けて主体的に取り組む態度の醸成	生徒指導	・生徒主体で達成感がもてる生徒会活動を創造する	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	○			80%	あなたは、仁心祭等の学校行事を通して、主体的に取り組み、達成感がもてましたか。	98.2%	97.1%	A	仁心祭をはじめ、様々な学校行事を通して、生徒主体で達成感が持てる生徒会活動を創造することができた。今後も生徒主体の活動を支援して生徒の達成感につなげ、生徒の自己実現に寄与していく。	A	次年度も引き続き、仁心祭等の学校行事で生徒主体の活動を支援し、生徒の自己実現に寄与していく。
							○		80%	学校は、仁心祭等の学校行事を通して、生徒が主体的に取り組み、達成感がもてるように生徒を支援しましたか。	92.6%	89.8%	A			
								○	80%	仁心祭等の学校行事を通して、生徒が主体的に取り組み、達成感がもてるように生徒を支援しましたか。	87.5%	90.9%	A			
	②	生徒が安心・安全な生活を送れる寄宿舎運営	舎務	・寄宿舎内の環境美化に取り組む。 ・外部舎監の方と情報共有し、生活・生徒指導を徹底する。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合。			○	70%	寄宿生は、寮のルールを守り、協力して生活を送っていると感じますか。	68.8%	97.0%	A	基本的な生活ができる生徒が多くなり、生徒同士のトラブルもほとんどなくなり、寮生活におけるルールも守られ落ち着いて生活している。今後も寮生の自主的な活動を応援していく。また、外部舎監や調理員の方と継続して連携していく。	A	適宜個人面談を行い、安心安全な運営に努める。寮生の自主的な活動についてもサポートしていく。継続して外部舎監や調理員の方と連携を図る。
	④	特別支援教育の推進と生徒理解	特別支援教育	・通級指導等を通して日々の生活での困り感を把握し、必要な情報共有先に伝え、よりよい支援を考える。 ・外部機関（ウインド、インクルーシブセンター校　等）と連携を図ることで、教職員の特別支援教育の理解を促し、生徒の自己実現に向けた支援にいかす。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合			○	80%	特別支援教育の視点をもって生徒に接することができましたか	* 81.3%	97.0%	A	各学年チャットを活用することで、情報を共有することができた。教職員研修では、インクルーシブセンター校と連携し、教育支援計画の活用の仕方について考えることができた。今後も校内での情報共有や外部機関と連携した教職員研修を実施したい。	A	今後も校内研修や外部機関と連携した教職員研修を実施し、教育支援計画を積極的に活用しながら、全教職員が共通理解に基づいた一貫性のある指導・支援を実践する。
	②	自己理解の促進と、他者を尊重する心の育成	1年学年会	・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を中心に自己理解に基づいた自己実現と系列選択ができるよう支援する。	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	○			85%	「産業社会と人間」「総合的な探究の時間ＩＡ」の授業や担任の先生との面談は、あなたが卒業後の進路について考え、自分に適した系列を選択するための助けとなりましたか。	96.0%	97.8%	A	探究活動の時間を通じて、分教室との交流、系列・科目選択、グループ発表など意義のある活動ができた。次年度の希望の系列選択者が定員を超えたが、すべての先生に協力を仰ぎつつ担任との面談を丁寧に実施しながら決定した。希望通りの選択が叶わなかった生徒もいたことから、各系列の将来を見据えた可能性を生徒に伝え、生徒がより主体的に系列を選択し、科目の学習内容を理解できるような取り組みが必要である。	A	生徒が自己理解をした上で前向きな系列選択をするように、早期から個々の生徒の進路希望をモニタリングし、適宜情報提供を行う。そのためには「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」をより系列や進路指導部と連携した系統的なプログラムになるよう企画し、系列選択決定に十分な検討ができる情報と時間を確保できるように実施する。
							○		85%	学校は、お子様が自己の強みや適性に基づいて希望の進路や目標に合った系列選択をするために十分な支援をしていましたか。	94.7%	83.3%	B			
								○	85%	「産業社会と人間」「総合的な探究の時間ＩＡ」の授業や個人面談は、生徒に進路意識を持たせ、進路希望や目標に適した系列選択をするための有効な手立てとなりましたか。	93.8%	100.0%	A			
	②	個々の進路実現に向けた指導の徹底	3年学年会	・面談を通じて生徒理解を深め、家庭等とも連携を密にしながら個々に応じた指導、支援を充実させる。 ・学年集会や進路集会において、迅速かつ適切な情報提供を行う。	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	○			80%	学年集会や個別面談は、あなたのやる気を高め、進路実現につながるような成長のきっかけを与えてくれるものとなりましたか。	100.0%	96.1%	A	学年会として、進路実現に向けた説明会や学年集会の実施を計画的に行った。必要に応じた生徒面談や保護者面談を重ね、適切な指導・助言を行うための情報把握に努めた。学年会や系列、各分掌など集約した情報を、状況に応じて共有していく必要がある。	A	個々に応じた指導・助言を行うため、学年会や進路指導部はもちろん、系列や部活動など多くの面から生徒把握を行い指導を行っていく必要がある。そのために、細やかな情報共有に努める。
							○		80%	保護者進路説明会・保護者面談や学年通信・学級通信などの便りは有効な情報提供となり、お子様の進路実現につながるものでしたか。	100.0%	93.8%	A			
								○	80%	全体・個別指導などの学年会における取り組みは、生徒の実態を把握し、進路実現や社会人としての基礎力を培うにふさわしいものでしたか。	93.8%	97.0%	A			
グランドデザインに関わる評価指標 しま学事業成果指標		実績・資格	A指標		新規高卒者の就職率	－	－	－	100%		97.1%	100.0%	A	・生徒の希望や適性に寄り添って焦らず丁寧に支援と指導をおこなった。1月末時点で就職を希望する全員が内定をいただき、目標を達成した。	A	・1月初旬に就職希望者全員の内定が決定し、目標の100%を達成できた。 ・進学・就職ともに安易な選択とならないよう、地元企業等と連携しながら３年後を見据えた丁寧な情報提供と指導をおこなう。 ・専門分野や多様な選択科目が生徒の可能性を広げ、自信を持って進路の選択ができるように、授業の工夫と改善をする。
					就職者のうちの県内就職者の割合	－	－	－	90%		94.1%	92.5%	A	・生徒の希望と地元企業の協力で目標を達成できている。地域への「安心感」と「期待」が地元で働きたいという意欲に繋がる。生徒の「安心感」「期待」を醸成できる取組の工夫が必要である。		
					系列の学びを活かした進学者の割合	－	－	－	50%		* 32.9%	61.0%	A	・２年間の系列の学習が専門分野への興味を深め、進学して資格を取得することや、より高度な知識・技術の習得を目指したいという意欲に繋がったと考える。総合学科が、幅広く学んだ上でさらに専門分野に焦点を絞って学び続ける生徒を育成できる学習環境であることを全教職員が共通理解し、日々の学習活動と進路指導に役立てることが大切と考える。		
		姿勢・意欲	B指標	主体性	生徒アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	○	－	－	85%	自らすすんで、学習に取り組むことができましたか。	93.2%	92.4%	A	・主体性、協働性、探究性は値の若干の上下はあるが今年度も目標値を上回り、校内での学びの成果が出ている。 ・社会性は増加したものの目標に届いていない。これまで「学校」と地域との繋がりを学習活動に取り入れる工夫をしてきたが、生徒個人が地域と繋がっていないことが課題である。校内外の意識を「学校」から「生徒」へと主体を移して、取り組みを協議していく必要がある。	A	・これまでの教育活動の中に生徒ひとりひとりが地域や様々な人と主体的に関わる機会を増やし、「生徒」と「地域」との繋がりを通して生徒が成長し、目標と自信を持って伝え、参加できるようにする。 ・石見銀山保全活動や探究学習、選択科目の中に、生徒が自分で考え、挑戦し、協働しながら改善していく活動を作る。
				協働性		○	－	－		わからないことを友人や先生に聞いたりして、解決しようとしましたか。	95.0%	91.4%	A			
						○	－	－		人の話をよく聞き、話し合いなどに熱心に参加できましたか。	95.9%	96.7%	A			
						○	－	－		授業やクラス、部活動などで自分の役割を果たすことができましたか。	96.3%	95.7%	A			
						○	－	－		疑問に思ったことを自分で調べることができましたか。	93.2%	88.1%	A			
				探究性		○	－	－		自分の意見をまとめて発表できましたか。	93.2%	89.5%	A			
						○	－	－		学校の決まりや社会のルール・交通ルールを守って生活できましたか。	98.2%	98.6%	A			
				社会性		○	－	－		地域の行事やボランティア活動に参加しましたか。	74.0%	79.5%	B			
		検定や資格取得の学習を通して各系列の専門性の向上を図り、地域をフィールドに協働できる力を育み、生徒の多様な進路選択を可能にする			生徒アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	○	－	－	90%	授業での外部講師を招いた講義や地域での活動は、あなた自身の専門性向上に役立ったと思いますか。	－	91.9%	A	・地域や外部講師の協力で生徒の学力育成のための環境を整えることができている。 ・資格や検定の合格基準は、自己評価では気づけない客観的評価を得る機会であり、達成のために努力する大切さも育成していく必要がある。	A	・検定や資格の指導時に、挑戦する意義や取り組む過程での成長の大切さを伝え、小さな失敗と克服を積み重ねながらより高い目標を目指せるよう指導計画を工夫する。 ・地域や校外の人に頑張りを認めてもらえることが次の挑戦への原動力になるので、広報媒体の話題に取り上げる。
						○	－	－	80%	あなたはこの一年間に目標としていた資格取得や検定合格を達成できたと思いますか。	－	78.6%	B			
						○	－	－	90%	総合学科での多様な学びは、あなた自身の進路選択に影響を与えていると思いますか。	－	94.8%	A			
地域づくり人材育成費 地域づくり成果指標		地域と連携した魅力化につながる教育活動の機会を増やす			魅力化アンケートの学習環境の４領域の結果が４領域とも３以上	－	－	－	75%		主体性 91.0% 協働性 84.1% 探究性 86.7% 社会性 74.9%	主体性 90.1% 協働性 83.5% 探究性 86.9% 社会性 76.4%	A	・外部講師や非常勤講師の協力も得ながら「学校」として地域と連携した学習環境作りの成果と考える。しかし、生徒ひとりひとりは地域と繋がれていない課題もあり、学習環境の主体を「学校」から「生徒」へシフトチェンジして工夫することが必要である。	A	・地域との連携を校内の単発的な機会とせず、生徒が自走できるところまでの繋がりを想定して計画する。 ・本校が目指す学校像や課題感を地域と共有し、働きかけていく。今年度はコンソーシアム役員会内で協議できたが、地域との目標の共有や意識の変容までには繰り返し、働きかけや協議を続ける必要がある。
		地域を支える人材の増加			県内への就職率	－	－	－	90%		* 就職 94.1% 進学 47.5% 合計 68.9%	就職者のうち県内率 92.5%	A	・学校と地域との連携が高校生と地元企業とを繋げる有効なきっかけになったと考えるが、この関係性を維持していくためには、高校生の地域に対する「安心感」や「期待」を持ち続けるための地域側の意識や努力も必要と考える。	A	・他県の高校生や大人に遵摩高校での活動に興味や関心を持ってもらうことは、卒業後も地域のために貢献する意義や価値に気づくことができると考え、今年に引き続き、「全国金銀銅サミット」参加や「地域課題解決型コンテスト」の上位入賞を目指す。
		学校の魅力を発信し、次世代の担い手を確保する			本校を総合型選抜で志願する中学生が募集定員を上回る	－	－	－	100%		* 総合型選抜 志願者 81名 一般選抜 志願者 42名	総合型選抜 募集定員 48名 に対する 志願者 63名	A	・昨年の反動で志願者が激減する心配もあったが、遵摩高校の魅力を知って、倍率を恐れず志願してくれる中学生が多くいることを確認できた。引き続き地域と連携した活動や行事を推進し、地元CATV、学校ＨＰ、公式インスタグラム等を活用して情報発信をおこなっていきたい。	A	・生徒自身が中学生や地域に本校の魅力を伝えられるように、伝える力を育成し、小中高のタテの繋がりなど、伝えられる機会を増やす。